

校長室の窓から

令和8年 1月 8日
明石台小学校長
平田 喜秋 第7号

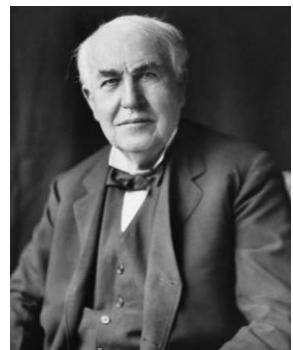
失敗は成功のもと

1月8日 (冬季休業明け) 朝会から

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひします。

さて、2026年がスタートしました。お正月はゆっくりできましたか？今日のお話は“失敗は成功のもと”というお話です。この人誰だかわかるかな？おー！知っている人がいました。よく分かったね。そう、この人は、トーマス・エジソン（1847-1931）という、アメリカ合衆国の人です。「発明王」と呼ばれてきた大変有名な人です。

エジソンは、これまで約1300以上のものを発明したそうです。有名なものでは、長時間長持ちする電球。音や声を記録し、再生する蓄音機。そして動画撮影機とこの3つがエジソンの「3大発明品」と言われています。



さて、このすごいエジソンですが、子供の時はどうだったのか、というと結構大変だったようです。小学校に入学して間もなく、算数の時間に「 $1 + 1 = 2$ 」と、教えられても鵜呑みにことができず、「1個の粘土と1個の粘土を合わせたら、大きな1個の粘土なのになぜ2個なの？」と質問したり、国語の授業中には「A（エー）はどうしてP（ピー）と呼ばないの？」と質問したりするといった具合で、授業中には事あるごとに「なぜ？」を連発し、授業をストップさせて先生を困らせていましたのだそうです。

これ、もし、校長先生がエジソン少年の先生だったらこう答えるかな。「 $1 + 1 = 1$ 、正解です！ $1 + 1 = 2$ 、こちらも正解！算数だって、いろんな答えがあつてもいいよね」「じゃあ、これは？右手にミニチョコ1個と左手にミニチョコ1個持っていた。合わせていくつ？答え、どっちも溶けてなくなっちゃったから0（ $1 + 1 = 0$ ）、っていうのもいいんじゃない？」「算数にもいろんな見方・考え方があったほうがおもしろいね」と話してあげるかな？最初っから、それは違う、間違って言われたら、せっかく一生懸命答えたのにやる気がなくなっちゃうからね。

そして、「どうして、どうして？」ばかりを繰り返したエジソン少年はどうなったのか？なんと、3か月で学校を辞めさせられてしまったのです。昔のアメリカの学校は厳しかったんだね。

ここで、えらかったのは、エジソンのお母さんのナンシーです。ナンシーは以前小学校の先生をしていました。「学校がダメなら、私が教えます」と決心して、エジソンの疑問を否定せず、寄り添い、一緒に考え、解決しようとしていきます。何でも確かめたいエジソンに対して、自宅の地下室に実験室まで作ってあげました。

また、エジソンは12歳の時に病気がもとで、難聴（なんちょう・聞こえづらい）になってしまいます。片方は全く聞こえず、もう片方もほとんど聞こえなかったようです。そんなエジソンに母親のナンシーはこう語り掛けます。

「あなたには、目も鼻もついているし、健康だわ。夢を捨てず努力し続けなさい」
エジソンにとって、なんと力強い言葉だったことでしょう。エジソンは、それから働きながら実験、を何度も何度も繰り返し、努力を積み重ねていきます。



エジソンは後にこう語っています。「耳が不自由（聞こえないこと）だと、かえって集中できる。」母親からもらった前向きな言葉がきっとエジソンの心に火をつけ、頑張っていく後押しをしたにちがいありません。

今度は、たくさんの発明をしたエジソンの言葉を紹介します。

エジソンのことば①

「天才とは1パーセントのひらめきと99パーセントの努力である」

エジソンのことば②

「僕は失敗なんかしちゃいない。うまくいかないやり方を1000通りみつけただけさ」

エジソンのことば③

「何かが君の考えたとおりに運ばなかったからといって、それが役立たずだという意味にはならない」

エジソンのことば④

「何があっても支えてくれた母がいたから、いまの私がある。母だけは何があっても、わがままの私を理解してくれた。どんなに苦しいときでも、母を喜ばせたくて私は努力を続けることができた。すべて母のおかげだ。」

エジソンのことばはどうでしたか？ここまで話をまとめると

- ① 「なぜ？」「どうして？」を自分で調べ、確かめることが大切
- ② 失敗は、うまくいかない方法の発見である。
- ③ 不自由なこと（障がい）があるからこそ、才能が發揮される。
- ④ 自分を支えてくれた人への感謝を忘れないこと

ということかな。（時間の都合上、以下の部分はカットしました）

③④で校長先生が思い出したことがあります。以前、野口英世のお話で校長先生も両足をやけどしたことがあるってお話しましたよね。他の人と比べたら、ちょっとした不自由さ（障がい）があつて、小学校の頃は、走るのも遅かった。でも“やけどが理由で足が遅い”とは思いたなかつたし、親にもそうは思わせたくなかつた。中学校の最後、何とか結果を残したい・・・。

こつこつ一人で練習しました。最後のマラソン大会、結果は2位だった。優勝メダルは取れず、自分を支えてくれた親への感謝が伝わったかどうかは分かりませんでしたが、ちょっととは、頑張れたかな、って思いました。

後期後半もみんなで協力して、いい明石台小学校をつくっていきましょう。

これでお話を終わります。

